

令和元年(2019年)度 国際機関等への拠出金等に対する評価シート

総合評価

B

■ 拠出金の概要

1 拠出金名	国際連合総会議長信託基金拠出金
2 拠出先国際機関名	国際連合総会議長室
3 拠出形態	<input type="checkbox"/> ノンイヤマーク <input checked="" type="checkbox"/> イヤマーク
4 拠出規模 (令和元年度当初予算額)	3,608千円 〔日本の拠出率 2.06%(平成30年度) 拠出額の順位 12位〕 <input type="checkbox"/> 本拠出金のみ <input checked="" type="checkbox"/> 他の拠出金も含む
5 国際機関等の概要	<p>(1) 設立年・経緯, 加盟国等の数, 本部所在地, 目的・マニフェスト</p> <p>●国際連合(以下、「国連」という。)は、1945年10月24日に発効した国連憲章により設立され、国際の平和及び安全の維持、諸国間の友好関係の助長、各国の経済的・社会的・文化的又は人道的問題の解決、人権及び基本的自由の尊重の助長における国際協力の達成を目的とした機関である。2019年4月現在、加盟国数は193か国。本部はNY。</p> <p>●国連の主要機関の一つである国連総会は、国連の全加盟国によって構成される国連の審議機関であり、国連が設立された翌年に第1回会期が開催された。国連総会の決定は加盟国政府に対して法的拘束力を持つものではないが、重要な国際問題に対する国際社会としての取組に大きな影響を与える。</p> <p>●総会議長は、任命された年の9月から翌年9月まで1年間にわたる国連総会会期において、総会の議事を取り仕切る重要なポストである上、ハイレベルテーマ別討論等の開催や国連の重要課題に関する各国政府要人との協議等も行う。総会議長室は、総会議長が任務を遂行する上で必要とする事務・調整・助言を行っている。</p> <p>(2) 主要な活動分野</p> <p><input type="checkbox"/> 安全保障      <input type="checkbox"/> 軍縮不拡散・科学      <input type="checkbox"/> 国際経済・資源エネルギー  <input type="checkbox"/> 司法            <input type="checkbox"/> 教育・文化            <input checked="" type="checkbox"/> 開発・人道  <input checked="" type="checkbox"/> 保健            <input checked="" type="checkbox"/> 環境・気候変動      <input type="checkbox"/> 地域協力  <input checked="" type="checkbox"/> その他(総会議長の任務遂行に係る支援)</p>
6 拠出の用途及び目的	国連総会議長信託基金は、総会議長の活動(国際会議開催等)を支援するため、国連事務総長が2010年に設立したもの。本件基金への拠出を通じ、国連総会議長との関係を強化し、日本が重視する課題について総会加盟国の関心を集め、日本の国益及び国際社会共通の利益に資する望ましい国連の実現に貢献することを目標とする。
7 担当課室	総合外交政策局 国連企画調整課

評価基準1 国際機関等の活動の成果・影響力

1-1 当該機関の戦略目標, 基本的な目標・計画・重点分野, 関連する国際課題(SDGsの関連ゴール・ターゲット, 国際基準・規範の形成等)等

<p>●ライチャーク第 72 回総会議長(任期:2017 年9月－2018 年9月)は、総会の議事を取り仕切る通常任務に加え、国連活動を人々に還元していくため「人々(people)」を中心に据えた上で、4つの優先事項として、①平和と安全(紛争予防)、②移民・難民、③国連改革、④SDGsを掲げて活動した。</p> <p>●エスピノサ第 73 回総会議長(任期 2018 年9月－2019 年9月)は、総会の議事を取り仕切る通常任務に加え、7つの優先事項として、①ジェンダー平等、②移民と難民、③気候変動、④障がい者、⑤働きがいのある人間らしい仕事(decent work)、⑥若者を中心とした平和と安全、⑦安保理改革を含む国連システムの再活性化を掲げて活動している。</p>
<p>1-2 1-1に基づく取組・活動(他の国際機関との連携等を含む。)</p> <p>●ライチャーク総会議長は、総会議長就任決定後、第 72 回総会議長として国連総会の円滑な議事・進行に加え、本基金を活用しつつ、日本を含む延べ 30 か国を訪問し、各国政府要人及び有力者と会談を行った。また、2018 年3月の『「持続可能な開発のための水」国際行動の 10 年』の開始イベント、5月末の「若者」に関するハイレベルイベント、6月の SDGs ファイナンス会議の3つのハイレベル会合を含め、自身が主催のハイレベル会合及びイベントを計 10 回開催。外部のステークホルダー等との面会も積極的に実施し、60 回以上のインタビュー及びメディア関連活動に参加した。</p> <p>●エスピノサ総会議長も自身の優先事項に基づき、2019 年2月から3月にかけて、国際移住と開発、女性のエンパワメント、国連の再活性化及び気候変動に関するハイレベル会合を主催している。複数回にわたる国連総会再活性化作業部会に関しても議論を主導。</p>
<p>1-3 1-2 の進捗・実績及びそれによって得られた成果</p> <p>●ライチャーク総会議長の下、第 72 回国連総会会期は無事に運営され、同議長主催のハイレベル会合は全て成功裏に終了。また、同議長は国連における重要な改革(平和及び安全保障、持続可能な開発、国連の運営改革等)に係る議論に関し主導的な役割を果たした。特に、同議長が当初から掲げていた優先事項に基づき、国連移住グローバルコンパクトの成果文書が 2018 年7月に国連総会にて承認された。同文書は移住現象をあらゆる側面で網羅することを目指した議論の成果であり、右事項に関して国連によって作成された初めての文書となった。</p> <p>●エスピノサ総会議長の下、第 73 回国連総会会期は順調に進行中であり、2019 年1月時点で 280 以上の決議と 63 の決定が総会にて採択されている。1-2 で挙げたハイレベル会合でも同議長は主導力を発揮しており、2019 年2月から4月にかけて行われた国連総会再活性化作業部会のテーマ別討論でも同議長が進行役を務めている。</p>
<p>1-4 (イヤマーク抛出のみ)イヤマーク抛出による取組・活動の進捗・実績及び得られた成果</p> <p>●2018 年2月に抛出された我が国からの抛出金 50,454 米ドルは、1-2 にて記述した3つのハイレベル会合の運営費に当初からイヤマークされており、実際に同3会合の参加者旅費、会合施設・設備経費、ランチョン運営費等に充てられ、右3会合の開催・運営を全面的に支援した。</p> <p>●2019 年3月 18 日に抛出された我が国からの抛出金 49,554 米ドルは、同年4月 29 日に開催された総会議長主催 UHC ヒアリング会合及び UHC フレンズグループ昼食会の運営に使用された。右ヒアリング会合においては、総会議長、WHO 事務局長、共同ファシリテーター等より我が国のリーダーシップに謝意が示されたほか、昼食会合には我が国の国連代表部大使が議長として参加、約 40 名の大使を含む主要加盟国及び関係者計約 150 名の参加の下、我が国主導で本年9月の国連総会 UHC ハイレベル会合に向けた主要論点について議論理解を深めることができた。本抛出金により、UHC 分野における我が国のリーダーシップを示すことに成功した。</p>

## 評価基準2 日本の外交政策上の有用性・重要性

<p>2-1 関連する日本の重要政策、外交戦略・重点分野等</p>
<p>① 関連する日本の重要政策(施政方針演説、外交演説、各種基本計画等のうち主なもの)</p> <p>●第 198 回国会の外交演説(平成 31 年1月 28 日)      第四に、地球規模課題の解決への一層積極的な貢献をしていきます。      国連の安保理は、もはや 21 世紀の現実を反映していません。安保理を改革していくことは日本だけでなく、国際社会の喫緊の課題です。まず、改革のための正式な交渉を始めることを目標にします。      (中略)      地球規模課題への対応が急務となる中、SDGs の達成に向けて、日本が主導してきた「人間の安全保障」の考え方に基づき、「誰一人取り残さない」社会を実現するための取組を進めていきます。</p>
<p>② 日本外交の関連重点分野</p>
<p>地球規模課題への対応(国際保健)</p>
<p>地球規模課題への対応(持続可能な開発目標(SDGs))</p>

地球規模課題への対応(環境・気候変動)	
2-2 日本の外交政策を遂行する上での当該拠出の有用性・重要性及び日本の重要外交課題の遂行への貢献	
<p>国連総会議長は、安保理改革、SDGs、気候変動等の地球規模課題に関する国際的議論の場として重要な国連総会の議事進行に関し中心的役割を担っており、日本の国連外交推進における最重要のキーパーソンの一人である。近年、その役割は拡大しつつあり(ハイレベル会合の開催や共同議長としての会議出席の増加等)、総会議長自身も本基金への拠出に大きな関心を寄せている。総会議長は特に、日本が重視する安保理改革に係る政府間交渉議長の任命を行うという重要な役割を担っており、安保理改革の実現を始め、日本が重視する課題について総会加盟国の関心を高め、日本の国益と国際社会共通の利益に資する望ましい国連の実現に貢献するためには、総会議長とのより一層の連携が必要。</p>	
2-3 当該機関の意思決定プロセスにおける日本の意向を反映できる地位の確保	
<p>本件拠出により、総会議長室との連絡・協力体制が密になり、総会議長室主催の行事等についても、事前に日程やプログラム等の共有を受け、右に対する我が国の希望を伝えること等も可能になった。また、会合やイベント等に明示的にイヤマークすることにより、我が国が重視している国連政策に係る会合開催等に関する要望を伝達できるようになった。</p>	
2-4 当該機関との間での要人往来、政策対話等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●2018年8月29-31日: エスピノサ第73回国連事務総長の訪日(安倍総理大臣表敬及び河野外務大臣主催夕食会)。訪日を通じ、北朝鮮情勢や、安保理改革、ジェンダー及びSDGs等の課題に係る我が国の取組について、同議長から理解を得ることができた。</li> <li>●2017年12月15日: 河野外務大臣とライチャーク第72回国連総会事務総長との会談(於: スロバキア)</li> <li>●2017年9月21日: 安倍総理大臣とライチャーク第72回国連総会事務総長との会談(於: NY)</li> <li>●2017年9月3-5日: ライチャーク第72回国連事務総長の訪日(安倍総理大臣表敬及び河野外務大臣主催夕食会)</li> </ul>	
2-5 日本企業、日本のNGO・NPO、地方自治体、大学等との関わり	
<p>2018年8月29-31日にエスピノサ第73回国連事務総長が訪日した際、JICA北岡理事長と面会しSDGs促進のための国連の各種改革について意見交換を行ったほか、同総会議長は上智大学において女性、平和及び安全というテーマでラウンドテーブルディスカッションを行った。また、同総会議長は鎌倉・藤沢を訪れ、官民連携による先進的な街づくりの取組を視察した。</p>	

### 評価基準3 組織・財政マネジメント

3-1 会計年度	9月中旬から翌年9月中旬(国連総会会期)		
3-2 機関全体の財政状況			
報告年月	2019年4月公表(第73回国連総会会期)	通貨	米ドル
予算額	2,237,133.29	決算額	決算をまだ了していない
予算額・決算額の差	—	予算額に占めるその差の割合	—
65%以上の場合、その理由	—		
3-3 本拠出の会計報告(イヤマーク拠出分のみ)			
報告年月	2019年1月受領(平成29年度分)	通貨	米ドル
報告がない場合、その理由	—		
予算額	50,454	決算額	48,713
予算額・決算額の差	1,741	予算額に占めるその差の割合	3%
65%以上の場合、その理由	—		

3-4 監査			
(1)外部監査			
対象年度	—	報告年月	—
実施主体	本信託基金のみを対象とした外部監査又は本件信託基金を含む外部監査は行われていない(各拠出国に対し、当該拠出国の拠出額についての財政報告が提出される。)		
財政状況に係る報告が正確かつ適正に作成されていることの確認 (「無」の場合にはその概要及び対応ぶり)		—	
組織・財政マネジメントに係る指摘(監査報告に含まれている場合) (「有」の場合、3-5に指摘内容を記入)		—	
(2)内部監査			
対象年度	—	報告年月	—
実施主体	2016年3月公表の国連内部監査部(OIOS)による報告書はあるが、今回の評価対象期間に作成された報告は無し。		
対象事項	—		
3-5 組織・財政マネジメント(人事・予算・調達等)に係る問題の概要・対応ぶり、更なる改善への取組・成果			
—			

#### 評価基準4 日本人職員・ポストの状況等

4-1 日本人職員数 (原則、各年12月末時点、専門職以上。)								
全職員数	日本人職員数		日本人職員 の比率(%)	過去3年の日本人職員数				増減数
	2018	2018		2017	2016	2015	平均値	
7	0	内、幹部 0	0.0	0	0	0	0	0
<input type="checkbox"/>	専門職から幹部職、 幹部職内の昇進有り		名	備考	—			
4-2 当該機関の長等の重要ポストを務めている日本人職員の有無								
—								
4-3 日本人職員の採用・昇進に係る具体的な協力の実績								
—								
4-4 その他特記事項								
<p>現在、総会議長室で勤務する職員は34人(男性13人、女性21人)。職員の構成は、国連通常予算で人件費をまかなわれている職員が7名、その他は総会議長の出身国を中心とする各国からの出向者やインターン等となっている。なお、総会議長室の職員の多くは、総会議長の交代に伴い1年ごとに入れ替わる。</p> <p>現在日本人職員がいない総会議長室への将来的な日本人の採用に向けた取組として、エスピノサ総会議長からの要望も受け、まずは、総会議長室の仕事を経験できるインターンを派遣することとなり、2019年5月から8月まで1名を派遣している。</p>								